

陸上長距離選手におけるパフォーマンスと性格特性に関する検討

A Study of relationship between characteristic and performance in long-distance runner

1K07B188-5 牧野 和恭

指導教員 主査 山崎 勝男 先生 副査 磯 繁雄 先生

【目的】

筆者は、自らが長く陸上競技に関わった経験から、陸上競技長距離種目において、競技のパフォーマンスが高い選手と低い選手では、選手の持つ雰囲気の違いを感じる場面が多々あった。そして、それは選手の性格特性の違いから生じるものなのではないかと考えた。陸上競技長距離種目においては、精神的な要素が競技の結果に大きな影響を及ぼすものと一般的に考えられている。そこで、競技力の高い選手と低い選手の性格特性を比較し、その違いを明らかにすることで、筆者の抱いていた疑問を明らかにすると共に、陸上競技長距離種目のさらなる発展にもつなげることができないのではないかと考え、調査を行うことにした。

尚、筆者は、競技力の高い選手と競技力の低い選手の性格の違いは、その練習に取り組む姿勢や試合時の冷静さ、日々の生活の中でいかにセルフマネジメントを行えるかという点に現れると考えたため、活動性やのんきさ、神経質などといった項目に有意差が見られるのではないだろうかという仮説を立てた。

【方法】

調査には、YG 性格検査及び NEO - FFI 性格検査の 2 つの質問紙と、自作のフェイスシートを用いた。早稲田大学競走部長距離ブロックの男子 35 名に対して、2010 年 6 月の下旬から 7 月の中旬にかけて回答を求めた。得られた回答を、チームの中でも競技力の高い選手を集めた A チームのメンバー 9 名と、A チームに比べて競技力の劣る B チームのメンバー 26 名に分けて結果を比較することで、性格特性とパフォーマンスの関連性を調査した。

【結果】

【YG 性格検査】G スコア(一般活動性)において、A チームが B チームよりも有意に得点が高いという結果がみられた。上記以外の項目には有意差はみられなかった。また、類型

判定の結果においても、A チームと B チームの間に有意な

差は見られなかった。

【NEO - FFI 性格検査】E スコア(外向性)において、A チームが B チームよりも有意に得点が高いという結果がみられた。上記の項目以外には有意差は見られなかった。

【考察】

今回の調査の結果から、陸上競技長距離種目において、高いパフォーマンスを発揮する選手はそうでない選手よりも活動性が高く活発で、外向的な性格であるということが分かった。この結果を筆者なりに考察すると、活動的な性格であるということが、日々の厳しい練習において主体的に取り組むことにおいて良い影響を与え、また、練習以外の場面においても、活動的に休日を過ごすなどしてうまく気分転換をできるということにつながり、良い影響を与えているのではないかと推測される。また、外向的な性格であるということにおいて考察すると、チームのトップレベルの選手であるということは、すなわちチームを牽引する存在であるということである。大学生の時分に限らず、高校生、中学生の頃からチームの主要メンバーとして活躍してきた選手の多い A チームの選手は、チームのメンバーとのコミュニケーションや外部の対応などに慣れており、外向性が高いという結果になったのではないかと推測される。

また、今回の調査では、選手が多忙であることなどから、質問紙での調査を 1 つのチームに 1 回行ったのみであったため、結果として集まったデータが少なかった。課題としては、より多くのデータを集めるために年に数回の調査を複数のチーム、幅広い年代に実施するなどして、陸上競技長距離種目におけるパフォーマンスと性格特性に関する研究が進むことで、陸上競技長距離種目のさらなる発展につながることを願う。